

## 特集 I

## 新型コロナへの有効性示唆する研究2件が論文文化

## ◇ シクロケム

シクロケム(東京都中央区、03・6262・1511)は、ニュージーランド産プロポリスの特有成分であるコヒー酸フェネチルエステル(CAPE)を10g当たり30mg以上で規格した「NZCAPE30」を供給している。原料にNZ産プロポリスを100%使用し、採取する場所や

季節によって含有量にばらつきのあるCAPEを規格化していることが大きな特徴。通常グレードのほか、γ-シクロケムストリン(γ-CD)包装でCAPEの安定性を格段に向上させたグレードも取り扱う。自社製品では、同じく優れた抗ウイルス・抗菌作用のマヌカハニーと組み合わせ

た「NZ産プロポリス入りマヌカハニーMGO400+キャンディ」を販売するほか、今秋にはサプリメントおよびマウスサプリメントも発売予定だ。

CAPEの機能性については、これまでの研究で難病である神経線維腫症の進行抑制や神

経細胞の分化促進を介した脳機能改善作用などを確認しており、いずれもCAPEをγ-CD包装することによって機能性が向上することも分かっている。

最近では、新型コロナウイルスに対するCAPEの有効性を示唆する論文が複数発表されたことで大きな注目を集めた。

国立研究開発法人産業技術総合研究所とインド工科大学デリー校との

共同研究では、CAPEがウイルスのメインプロテアーゼ酵素の活性を阻害し、増殖を抑制する可能性を発見。

この働きが新型コロナウイルスの感染予防にも期待できるとした論文が6月に受理された。年内にもインビボおよびインビトロでの試験を実施するという。

一方、メルボルン・PAK研究センターの丸田浩氏はCAPEの神経線維腫症抑制作用と同じメカニズムで新型コロナウイルス

ウイルスを抑制する可能性を見いだし、論文発表を行った。過去の研究では、CAPEが腫瘍の発生に関与する酵素の一種・PAKIの働きを抑えることで神経線維腫症を抑制することが明らかになっているが、丸田氏の論文では多くのウイルスが感染する際にPAKIの働きが不可欠であることから、CAPEが新型コロナウイルスウイルスを抑制し、潜在的な治療薬として役立つ可能性を指摘している。

